

ART in LIFE, LIFE and BEAUTY

サントリー美術館（六本木）2020.07.15～09.13(会期変更)

本展は、およそ6か月間の改修を終え第1弾として開催される催事で、これまで同館がコレクションしている“生活の美”をテーマに展示されている。

<展覧会 の構成>

第1章1節 装い：^{ふせんりょうらでんまきえてばこ}浮線稜螺鈿蒔絵手箱(国宝)と化粧道具

「装い」とは、“身づくろいする、飾り調える”ことを示す古語で、生活の様々な局面に合わせて身なりや外観を調えながら、自分の心をも整えるという意味で、「装（よそ）ぶ」とは、きわめて人間らしい行為と言える。



本節では、平安から明治時代までの化粧道具や髪飾りを取り上げ、国宝を初めとして華麗な装飾の鏡箱や香箱、紅板、様々な技法や素材で作られた櫛などが展示され、日常生活を彩った装身具の優美なデザインや変遷の様子が窺える。

国宝の手箱は、金粉を細かく一面に蒔き、浮線稜文の稜螺を散りばめ、箱蓋裏には、梅、松、藤、桜などの数多くの四季の花を細密な線で描きつめられている。

第1章2節 装い：美人画と着物 第1章3節 装い：鎧兜と戦いのいで立ち
第2章1節 祝祭・宴：祝いの調度 第2章2節 祝祭・宴：宴の屏風と酒の器



第3章1節 異国趣味：南蛮屏風と初期洋風画

第3章2節 異国趣味：異国趣味の意匠（デザイン）